

○依存と自立

子どもを早く自立させたいと、幼い時から「甘やかさない」という方針で育ててはいないでしょうか。実は、いっぱい「甘え」させた子どもほど、しっかり「自立」するのです。

赤ちゃんは誕生した瞬間から、生活の全てを養育者（以下親）に「依存」して生きています。やがて成長とともに、100%の依存から、少しずつ「自立」していき、自分で食事を摂るようになり、トイレも一人で行けるようになってきます。

このように行動が自立していく様子は分かりやすいのですが、心の自立はどうでしょうか。心の成長は目に見えないので、分かりにくいですね。

実は子どもの心は、「依存」と「自立」を行ったり来たりしながら、成長していくとされています。

赤ちゃんは、お腹が空けばオッパイをもらい、オムツが濡れば、取り替えてもらい、生活の全てをお母さんに「依存」して生きています。その、親に依存している状況は子どもの心を「安心」させるとともに、親に「甘え」ている状態であるとも言えます。

子どもはこの「安心」と「甘え」の中で成長していくのですが、しだいに別の気持ちが芽生え始めます。親に依存していることは安心ではあるけれど、そこには「自分の思い通りにできない」という「不自由」を感じ始めるのです。

身体が成長し、行動も自立し始めると、身の回りのモノに興味や関心を持ち、自由に動きまわりたくなるでしょう。そうすると、子どもは親から離れ、何でも自分でやってみたくになります。これが言い換えれば「意欲」です。

親から見れば、まだまだ一人ではできないのに、自分でスプーンを持ってご飯を食べようとしたり、服の着替えに手を貸せば、「自分でする！」と言ったりして、親の援助を断る時期があります。自立への一歩を踏み出しているわけです。

そして、この「自立」の世界で「自由」を感じていた子どもは、やがてまた別の気持ちを抱きます。それは、「不安」です。一人できると思っていたことができなかつたり、今までいつも傍にいたお母さんから離れていることに、寂しさを感じたりし始めるのです。

すると子どもは以前、親に依存していた世界に戻って来たくになります。それが「甘え」です。そして十分に親に甘え、安心すると、また不自由感を抱き、自立しようとするのです。

このように、子どもの心は「安心」と「不安」、「依存」と「自立」の気持ちを行ったり来たりしながら、少しずつ成長し自立していくのです。



ですので、子どもが甘えてきた時に、「いつまでも甘えちゃダメ！」と言って、突き放してしまうと、子どもは「一旦、お母さんから離れると二度と受け入れてもらえない」と感じ、いつまでも自立しようとしなくなります。しっかり子どもの心を受け止め、甘えさせてやることも大切です。そうすることによって子どもの心は螺旋（らせん）を上向きに描くように、ドンドン自立していくのです。

（子育てガイド 田宮 由美さん コラムより）

ホームページ更新しました	来週の予定				
	月	日	曜	時間	行事等
○柿を配りました Part 2	11	28	月	14:55	朝礼
					一斉下校
○郵便局と海南こどもの国に、探検しに行きました。		29	火	15:45	6年卒業アルバム撮影
					一斉下校
○5年有松絞体験		30	水	14:55	5年校外学習 鈴鹿サーキット
					15:45
○孫宝排水機場の見学	12	1	木	15:45	6年校外学習 明治村
					一斉下校
○朝礼 保健の先生より 残菜ゼロ表彰		2	金	14:55	資源回収
					15:45
○赤い羽根募金					

子どもたちの活動の様子は、本校ホームページをご覧ください。

十四山東部小学校

で

検索

または

